国際医療福祉大学 2012年4月30日発行 学校法人国際医療福祉大学 ☎0287-24-3000
http://www.iuhw.ac.jp/

「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW

vol.89
April
2012

International University of Health and Welfare

2011年度 国際医療福祉大学

学部・大学院 学位記授与式

卒業生・修了生概要

北島政樹学長式辞

クローズアップ卒業生・大学院修了生

特集 二〇一一年度 学部・大学院 学位記授与式

三月一四日、大田原キャンパスにおいて『二〇一一年度 学部・大学院 学位記授与式』が行われた。

●卒業生総代の村上友佳子さん

校歌斉唱に続き、北島政樹学長から卒業生総代の村上友佳子さん（看護学科）へ、金澤一郎大学院院長から修了生総代の小森規代さん（医療福祉学研究科博士課程）へそれぞれ学位記が手渡された。

各学科の学業最優秀者九名に『学長賞』が授与され、さらに、今回新設された『大学院長賞』が、博士課程・修士課程から選出された研究業績優秀者三名に授与された。

学長、大学院長の式辞に続き、来賓の大田原市長・津久井富雄様、栃木県知事代理・名越究様より祝辞をいただいた。

村上友佳子さん（看護学科）の「卒業生謝辞」、小森規代さん（医療福祉学研究科保健医療学専攻 博士課程）の「修了生謝辞」、平井大貴さん（医療福祉学科）の「卒業記念品贈呈」をもって無事に閉式。その後はそれぞれの『学科別（大学院）学位記伝達式』に臨んだ。

●修了生総代の小森規代さん

●『学長賞』が授与される学業最優秀者

二〇一一年度 学部卒業生・大学院修了生概要

■学部卒業者合計 1189名
保健医療学部合計 549名
・看護学科 121名
・理学療法学科 98名
・作業療法学科 89名
・言語聴覚学科 87名
・視機能療法学科 49名
・放射線・情報科学科 105名
医療福祉学部合計 177名
・医療経営管理学科 78名
・医療福祉学科 99名
　総合社会福祉コース 66名
　介護福祉コース 33名
薬学部合計 138名
・薬学科 138名
小田原保健医療学部合計 153名
・看護学科 54名
・理学療法学科 50名
・作業療法学科 49名
福岡リハビリテーション学部合計 172名
・理学療法学科 97名
・作業療法学科 39名
・言語聴覚学科 36名
■大学院修了者合計 236名
□修士課程修了者合計 205名
医療福祉学研究科
・保健医療学専攻 198名
・医療福祉経営専攻 111名
・臨床心理学専攻 62名
　薬科学研究科 25名
・生命薬科学専攻 7名
□博士課程修了者合計 31名
（論文審査合格者8名を含む）
医療福祉学研究科 23名
・保健医療福祉学専攻 23名
■学長賞
保健医療学部
・看護学科　村上友佳子
・理学療法学科　定方萌恵
・作業療法学科　六本木夏季
・言語聴覚学科　坪井美代子
・視機能療法学科　山本莉奈
・放射線・情報科学科　桑原亮太
医療福祉学部
・医療経営管理学科　馬場望美
・医療福祉学科　平井大貴
薬学部
・薬学科　土子雄太
小田原保健医療学部
・看護学科　加藤彩花
・理学療法学科　内藤由香莉
・作業療法学科　江本沙希
福岡リハビリテーション学部
・理学療法学科　松田理咲
・作業療法学科　今井健人
・言語聴覚学科　河野久美
■大学院長賞
・医療福祉学（博士）　小森規代
・医療福祉学（修士）　鍋谷佳子
・薬科学（修士）　山西由里子
■卒業する留学生
・KAEWUUNCHAI SOMJAI（ゲウチャンチャーイ　ソムチャイ）＝タイ
・崔允珠（チェ　ユンジュ）＝韓国
・TETY FADILAH（テティー　ファディラー）＝インドネシア
・金泰延（キム　テジョン）＝韓国
・唐暁昂（トウ　ギョウコウ）＝中国
・SHRESTHA SUNITI（スレスタ　スニティ）＝ネパール
・郭延洲（カク　エンシュウ）＝中国
■修了する留学生
・葛萌（カツ　モウ）＝中国
・EANG ROMDUOL LEAKSMY（イアン　ロムドゥル　レスマイ）＝カンボジア
・NGUYEN THI PHUONG ANH（グェン　ティ　フォン　アン）＝ベトナム
・李淵邦（リ　エンホウ）＝中国

IUHW International University of Health and Welfare vol.89 April 2012

CONTENTS

2 卒業生・修了生概要
4 北島政樹学長式辞
クローズアップ卒業生
7 クローズアップ大学院修了生

キャンパスレポート
8 第22回 小田原キャンパス
9 第12回 福岡天神キャンパス
10 第26回 大川キャンパス
11 第4回 塩谷看護専門学校

トピックス
11 開原成允先生を偲ぶ会／福祉援助工学分野 院生にリフトリーダー修了書
12 国際医療福祉大学 技術情報交流会／大学院 李建軍氏（中国リハビリテーション研究センター院長）講演会／医療福祉・マネジメント学科 国家試験直前対策講義&壮行会／医療福祉・マネジメント学科 認定資格合格証授与式
13 看護学科 2011 新授業科目「統合実習」／看護学科 平成23年度FD学習会／作業療法学科 とちぎ福祉用具コンテスト／視機能療法学科 台湾元培科技大学の視察団を迎えて

冬季海外研修レポート
14 ハワイ研修／オーストラリア研修

施設インフォメーション
15 国際医療福祉大学病院／国際医療福祉大学塩谷病院／国際医療福祉大学熱海病院
16 国際医療福祉大学三田病院

18 卒業生・留学生通信
19 大学院・医療福祉ｅチャンネル

20 学生投稿ページ

「TOEIC IPテスト」が全キャンパスで受験可能に！

本学は平成24年4月より（財）国際ビジネスコミュニケーション協会の賛助会員になりました。同協会はTOEIC事業を中心に幅広く活動している団体です。TOEICとは英語能力試験の一種で、英語によるコミュニケーション能力を測ります。

賛助会員になったことにより、本学で「TOEIC IPテスト」「TOEIC Bridge IPテスト」をリーズナブルな価格で受験できるようになりました。英語学習の成果を試すチャンスですので積極的に受験することをお薦めします。（総合教育センター・語学教育部　齋藤智恵）

2012年度入試報告

2012年度入試では、他校に先駆けて被災者支援特別入試の実施を決定。岩手・宮城・福島に地方会場を設け、被災地に寄り添う入試とすることができた。

地元志向や震災等の影響により、今年度の志願者は微減したが、本学の特待生制度も受験生に浸潤してきており、期待も大きくなりつつある。その期待に応えられるよう、2013年度入試も公平・公正な入試を心がけていきたい。（入試センター 入試事務室）

学部	定員	志願者数（ ）は昨年度
保健医療	480名	2924名（3263名）
医療福祉	160名	383名（364名）
薬	180名	1014名（984名）
小田原保健医療	130名	1491名（1549名）
福岡看護	80名	565名（526名）
福岡リハビリテーション	160名	560名（480名）
合計	1190名	6937名（7166名）

【博士課程修了者（論文博士を含む）】
・**新井 清代**（理学療法学分野）
『寝返り動作における体幹パターンに影響を与える要因分析』
・**石川 雅俊**（医療福祉経営学分野）
『二次医療圏データベースを用いた医療提供体制評価手法の検討』
・**石坂 正大**（理学療法学分野）
『足踵運動療法が静的・動的立位バランスに及ぼす効果』
・**市川 光代**（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）
『軽費老人ホーム居住者がボランティア活動を行うことの意義 ―福祉施設における高齢者支援の在り方を再考する―』
・**今井 丈**（理学療法学分野）
『果部捻転角の計測の信頼性と左右差による着地動作への影響』
・**蛯谷 勝司**（福祉援助工学分野）
『福祉用具に存在する共通機能の抽出とJIS規格作成への応用』
・**小貫 睦巳**（理学療法学分野）
『理学療法教育におけるeラーニングの実践と可能性 ―自己効力感とその促進尺度の研究―』
・**川田 教平**（福祉援助工学分野）
『片麻痺者の車いす駆動動作の分析 ―車いすクッションが駆動動作に及ぼす影響―』
・**後藤 喜美子**（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）
『在宅における要介護者の〝自立〟に対する思いと介護専門職の自立支援への考え方（意識）に関する研究』
・**小森 規代**（言語聴覚分野）
『筋萎縮性側索硬化症患者における言語機能障害の特徴と発生メカニズムの検討』
・**島富 ひとみ**（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）
『高齢者の「就労」は「主観的幸福感」を高めることが出来るのか ―福岡市におけるシルバー人材センター会員・老人クラブ会員・デイサービス利用・一般社会人調査より―』
・**下村 裕見子**（医療福祉経営学分野）
『がん地域連携推進における連携実務者の役割に関する研究―がん地域連携クリティカルパス活用から病診連携を考える―』
・**髙梨 晃**（理学療法学分野）
『軟部組織硬度計を用いた弾性値評価の基礎的研究および臨床応用』
・**田尻 后子**（理学療法学分野）
『中高年女性における尿失禁に関する研究―腹横筋厚を用いた評価とその応用―』
・**田中 千鶴子**（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）
『医療的ケアの必要な青年期以降の重症心身障害者とその家族が求める在宅支援 ―サービス利用者の特性とニーズに応える支援の在り方―』
・**根岸 茂登美**（看護学分野）
『タクシードライバーの職業性ストレスと労働生産性に関連する要因の順次的説明的研究』
・**原 麻理子**（リハビリテーション学分野）
『道具の使用障害とその徴候』
・**平島 ユイ子**（言語聴覚分野）
『中等度難聴児のコミュニケーションプレイクダウン時における訂正方略活用に関する研究』
・**藤尾 祐子**（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）
『介護施設での「自立支援介護」の課題抽出と実践のためのツール開発』
・**丸山 純人**（放射線・情報科学分野）
『発話課題を用いた言語優位半球同定のためのｆＭＲＩ検査法に関する研究』
・**宮島 恵樹**（理学療法学分野）
『足低感覚測定に関する基礎的研究と臨床応用―モノフィラメント圧痛計による検討―』
・**LI JIANJUN**（医療福祉経営学分野）
『Study and Development of Hospital Rehabilitation Information System from the perspective of Integration and Management of Rehabilitation Resources』
・**熊澤 幸子**（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）
『独居後期高齢女性の日常生活の衰えに関する研究』
・**大谷 喜美江**（看護学分野）
『二十代女性労働者のレジリエンスの変化とストレス緩衝効果に関する縦断研究 ―女性の精神的健康の向上に向けて―』
・**菊池 有紀**（看護学分野）
『要支援から要介護3の後期高齢者に対する二重課題に認知機能・うつ傾向・握力における有効性：デイサービスにおける「かぞえて体操」の実践を通じて』
・**長谷川 昌士**（福祉援助工学分野）
『脳卒中片麻痺患者におけるベッドから車いすへの移乗動作中の転倒防止に関する研究―手すり形状の違いによる転倒防止効果の比較―』
・**西山 智春**（看護学分野）
『思春期学童の肥満及び肥満改善に影響を及ぼす要因と健康管理行動育成プログラムの検討』
・**遠藤 慶子**（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）
『通所介護施設利用者に対する食生活指導に関する検証』
・**中嶌 洋**（医療福祉学分野）
『日本における在宅介護福祉職形成史研究』
・**川井 太加子**（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）
『孤独死予防のための高齢者の意識に関する研究』
・**工藤 良子**（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）
『脳血管障害者のＡＤＬの長期予後と重度例への急性期看護における自立支援の課題に関する研究』

北島政樹学長式辞（要約）

早いもので地震発生から一年が過ぎました。昨年は三月一五日に予定しておりました大田原キャンパスでの学位記授与式を中止せざるを得ませんでした。本日は、学部卒業生および大学院修了生の皆様はもとより、今日までご支援されてこられたご両親およびご家族の皆様にとりましても待ちに待った喜ばしいことと思われます。本学教職員を代表して心よりお祝いを申し上げると共に、今日まで愛情をもって一生懸命に育て上げてこられたことに敬意を表します。

日本の諺に「温故知新」という言葉があります。出典は論語であり、昔の物事を研究し、吟味してそこから新しい知識や見解を得るという意味であります。歴史のある私立大学は、創立者が存在し、それぞれが建学の精神を掲げ、学生一人ひとりがそれを心に刻み、伝統を創り上げていくことができる。これが国公立大学と大きく異なる点であると考えております。従いまして、我々の学び舎の歴史を知ることは、学生が社会に出て行くために大変重要なことであると思います。本学は「共に生きる社会の実現」という初代学長大谷藤郎先生の建学の精神と共に、一九九五年に開学いたしました。さらに、高木邦格理事長の父上様、高木維彦先生は、終生一枚の額を大切にされ、そこに書かれた「生命之尊厳 生命之平等」というお言葉と建学の精神が脈々と継承され、光輝ある伝統と歴史を築いていると言っても過言ではありません。

さて、社会に目を向けると、政治・経済は混沌としており、この激動の中で、卒業生の皆様は本学の教育理念のひとつである「自ら考え、自ら行動する幅広くバランスのとれた人格形成を図る」べく努力する必要があります。その結果、「独立自尊」の人となり、独立して世に処し、自己の人格と威厳を保つことができます。東洋思想の研究者、安岡正篤氏は「暗黒を嘆くより、一燈をつけましょう。我々は、まず我々の周囲の暗を照らす一燈になりましょう。手の届く限り、至る所に燈明を備えましょう。一人一燈なれば、萬人萬燈です。日本はたちまち明るくなりましょう」と述べております。すなわち、社会の現状を嘆くのではなく、自分自身が温かい心をもって接すれば、周囲の人をも動かすことができます。

卒業生の皆様はもう一度、本学の建学の精神を心に深く留めて頂きたいと思います。すなわち疾病・障害を持つ人も健康な人も、お互いを認め合って「共に生きる社会」を目指し、「**人間中心の大学**」、「**国際性を目指した大学**」、「**社会に開かれた大学**」という三つの基本理念のもとに育成されてきた人材が、あなた方であります。本学で学んだ自信と誇りをもって、実りある悔いのない人生を歩まれることを祈念しております。

クローズアップ卒業生 Close-up Graduate

感謝の気持ちを忘れずに

薬学科　石崎憲

入学当初は、六年間は長くて、卒業なんてずっと先のことだろうと思っていましたが、こうして卒業を迎え、嬉しい気持ちと不思議な気持ちでいっぱいです。薬学部に入学したものの、初めはどのような勉強をするのかも理解していませんでした。実際に授業が始まってからも、その内容の難しさ、覚える量の多さに圧倒され、授業になかなかついていくことができませんでした。しかし、親身に相談にのって頂いたり、勉強のアドバイスをして頂いた先生方のおかげで、授業を受ける姿勢や勉強に対する意識も変わり、徐々に授業内容を理解することができるようになりました。また、同じ目標に向かって、切磋琢磨した仲間の存在も大きく感じます。辛いときはともに励ましあい、達成したときは喜び合い、この六年間ともに支えあってきました。

お世話になった先生方や仲間への感謝の気持ちを忘れることなく、学生生活で培ったものを発揮できるよう頑張っていきたいと思います。

笑顔で卒業

薬学科　加藤絵理花

六年間はあっという間！…ではありませんでした。六年制の一期生はすべてが初めてで、いつも不安でした。CBTもOSCEも卒業試験も国家試験も実務実習も、すべてが先輩とは違うものでした。五年次の実務実習は、有意義で楽しいものでした。知らないことだらけで、毎日が新鮮でした。早く現場で働きたいと思いました。国家試験の内容も、四年制に比べ、かなり現場を意識したもので、実習で学んだことが多く出題されました。

一番苦労したのは、一三回行われた卒業試験です。卒業なんてできないと自信を失い、体調を崩しました。その時は先生のアドバイスで自信を取り戻し、友達にも勇気づけられました。そして、私は実家から通っていたので、いつも家族がそばにいました。おかげで、私は最高の環境で勉強することができました。

四月から病院薬剤師として働きます。これからが勉強の始まりだと思っています。立派な薬剤師になって、今までお世話になった方々に恩返しをしたいです。

大学生活と震災を経て学んだこと

医療福祉学科　沼﨑翔平

私は今まで、自分の生活を何よりも優先してきました。それが自分の生き方であり、この考えは変わらないと思っていました。しかし、震災と災害時ボランティアプロジェクトチームでの経験は、私に新たな生き方を教えてくれました。

このチームは大田原市や避難所への支援、募金活動などの活動をしました。在学生にも参加された方は多いと思います。特に避難所では、人々が自主的に支えあって生活する「共助」の姿がありました。「共助」とは、福祉の理念でもあり、一方的な支援でなく、共に生き、支えあうという意味です。私はようやく、その意味を理解できたと思い、改めて福祉職として勤めていきたいと強く思いました。

今後私たちはそれぞれの現場に赴きますが、もしまた大きな地震があったら、誰よりも落ち着いて行動できるのは、あの震災を経験した私たちのはずです。この意識を大切にし、福祉職として多くの高齢者を支えていきたいと思います。

最後に、福島県人として、チームの皆さんに心から感謝申し上げます。皆さんの姿は、大田原市の方々だけでなく、避難されていた他県の方々の中にも必ず残っています。そのことを忘れずに、楽しく有意義な学生生活を送ってください。

数多くの友達との出会いと学び

医療経営管理学科　スレスタ スニティ

ネパールから来日し、五年を過ごしました。日本の高レベルの医療と経営管理を学び、自国にも医療経営管理と医療情報システムを導入したいからでした。

言語はもちろん、生活水準が異なる日本での生活に最初はショックを受けましたが、多くの日本の学生、先生方、その他の友人と語り合う中で、次第に文化的な違いを知り合うことが楽しく感じるようになりました。私の家でのカレーパーティは思い出の一つです。日本では手に入らないスパイスと独特の風味は、ネパールの食文化を伝える機会になりました。大学の講義や実習とアルバイトを両立させる生活はとても大変でしたが、先生方とクラスメイトの励ましで乗り切ることが出来ました。学部で学んだ知識や実習経験を活かしてネパールの病院の質の向上に貢献したいと思います。

先生方、友達、ロータリークラブのみなさま、本当にありがとうございました。

四年間を振り返って

看護学科　杉山さやか

この四年間を振り返ると、あっという間に時間が過ぎ、とても充実した生活を送ることができたと思います。

中でも、印象に残っていることは実習です。初めて患者様を受け持たせていただいたときは、何をするにも緊張や不安といった気持ちでした。そんな中でケアを実施した際に患者様からいただいた「ありがとう」という言葉は今でも忘れません。学生という未熟な私に対しても感謝してくれたことに喜びを感じたとともに、よりよい看護を提供できる看護師になれるように今後もいっそう努力していこうと思いました。

看護師を目指し、入学してからここまで来ることができたのは、ご指導いただいた先生、支えてくれた友人や家族など、さまざまな人々のお陰だと感謝の気持ちでいっぱいです。今後も感謝の気持ちを忘れずに頑張っていきたいと思います。

インドネシアと日本の架け橋として

理学療法学科　ティティ ファディラー

私の母国のインドネシアでは、リハビリテーションをしている病院があまりありません。一〇年前、私の伯母は五〇代のとき脳卒中で倒れました。一命はとりとめましたが、生活が困難となりました。歩行、更衣動作、食事動作、入浴動作などすべて介助が必要だった。ほとんどはベッド上の生活になってしまいました。私はそれをみて、もし、すぐに適切なリハビリテーションを受けることができたら、きっと回復できると考えました。医療の道に進むことを決心し、医療の発達している日本への留学を目標にしました。

将来、インドネシアに帰国し、日本で学んだ医療を広めたいと思っています。病院で適切なリハビリテーションを受けることで伯母のように苦しむインドネシアの人々を少しでも減らしたい。さらに、本学とインドネシアの架け橋として貢献できる人材になりたいと思っています。

出会いと絆

作業療法学科　藤原さおり

高校生の時に作業療法士という職業を知り、リハビリテーションに関わる仕事がしたいと思い始めました。同じ目標を持った大好きな優しい仲間達と過ごす時間は、本当に楽しかったです。支え合える仲間がいたから、時々訪れた困難にも打ち勝つことができたのだと思います。

臨床実習では、患者さんと向き合うと同時に自分とも向き合い、大きく成長できるきっかけとなりました。担当させて頂いた患者さんに負担をかけてしまったのではないかと不安を感じていましたが、最終日に、「あなたの笑顔と優しい言葉に救われたよ。あなたならこれからもきっと大丈夫」と声を掛けて下さいました。私はこの患者さんの優しさと言葉に支えられて、頑張ることができました。

両親を初め、この四年間で出会った方々への感謝の気持ちでいっぱいです。たくさんの方に支えられていること、仕事に対するわくわくする気持ちを忘れずに、これからは作業療法士として大きく成長していきたいと思います。

『感謝』

言語聴覚学科　坪井美代子

社会人を経て一二年ぶりの学生生活に期待と不安を抱きながら入学。今思えばあっという間の四年間は、これまでの人生の中で最も忙しくも楽しい充実した日々だったと感じます。

入学当初は、学業と家庭を両立していけるのか不安でしたが、学科の先生方を始め、実習施設の先生方、社会人経験者の先輩方、年齢差に戸惑いながらも私を受け入れ、共に学んでくれた学科一四期生の皆さん、そして、夫・娘・両親の理解と協力…。多くの方々に支えていただき、無事卒業を迎えられ、心から感謝しています。

昨年は、命の尊さや絆の大切さを改めて考える一年となりました。犠牲になった方々のご冥福をお祈りすると同時に、今こうして命あることに感謝し、人間がその人らしく生きる基盤となる『コミュニケーション』や『食べること』を支援する専門職として、これから出会う患者様一人ひとりに誠実に向き合っていきたいと思います。

感謝の気持ち

視機能療法学科　伊藤卓哉

大学に入学してからたくさんの出会いがあり、その中で多くのことを学び、何事も挑戦することが大切だと感じました。不安と希望を抱きながら入学し、視機能療法学科で学んだ四年間は、思えばあっという間でした。それだけ、大学生活は充実していました。これは熱心に指導してくださる先生方をはじめ、多くの人の支えのおかげであり、心から感謝しています。そして、同じ目標を持ち入学した友人たちと切磋琢磨しながら過ごした日々は、私にとって大きな財産です。

本当に多くの出会いがありました。その一つ一つが私自身を成長させてくれたと強く感じています。四月から視能訓練士として臨床の現場に出てからも、数多くの出会いが待っていると思います。その出会いを大切にして、感謝の気持ちを忘れずにいきたいです。今後も様々な障壁が立ちはだかると思います。しかし、これまでに培ってきた知識や経験を最大限に生かし、質の高い医療の提供に努めていきたいと思います。

四年間に感謝

放射線・情報科学科　吉野優人

入学時、私は自分の目指す診療放射線技師について詳しく知らず、単に「患者さんの怪我した箇所を撮影する」という漠然とした考えしか持っていませんでした。しかし、大学で講義を聞いて、そんな単純な職種でないことに気付かされました。診療放射線技師の撮影した画像が医師の診察に大きく関わり、命に大きく関わることを知りました。先生方に出会えて、専門知識・技術以外に医療人としての在り方を教わりました。また、勉強や就職活動で行き詰まった時に、友人や先生方に支えられて乗り越えることができました。弱気にならず、積極的に挑戦する大切さに気付くことができました。

この四年間、優しい友人や時には厳しい先生方に出会えて、恵まれた環境で大学生活が送れたと思います。これから社会人として命に関わる現場で、これまで以上の困難があると思います。しかし、大学四年間の感謝の気持ちを忘れず、卒業する仲間と共に、診療放射線技師としての人生を頑張っていきたいと思います。

振り返って

博士課程　保健医療学専攻
言語聴覚分野　言語障害学領域

小森規代

私は国際医療福祉大学病院リハビリテーション室で言語聴覚士として勤務しております。

常勤で仕事をしながらの大学院生活は自らの知力、体力、精神力の限界に挑むものであると同時に、非常に充実した日々でした。同じ環境で共に頑張っている仲間や先輩に励まされ、また職場の皆様に多大なご支援を頂き、どうにか論文をまとめることができました。この場をお借りして御礼申し上げます。

大学院では、目に見えない高次脳機能障害を科学的に分析するための方法や心理を追及する姿勢を学び、また研究の楽しさを知りました。ご指導いただいた藤田先生には学部、修士のころからお世話になり、博士課程ではこれまで以上に多くの時間と情熱で私のまとまらない思考を熱く丁寧に導いて頂きました。研究の過程では、自分の不甲斐なさにガッカリすることも度々ありましたが、真理の一端を垣間見ることができた時の喜びは何にも代えがたいものでした。さらに、大学院での研究活動を通して「臨床と研究は表裏一体である」ということばの意味が少し分かるようになったように思います。今後は、これらの学びを生かし、患者様お一人お一人によりよい言語聴覚療法を提供できるよう研鑽して参りたいと思います。

学術的な考え方を得た

修士課程　保健医療学専攻
看護学分野　感染管理・感染看護学領域

鍋谷佳子

私は、二〇〇四年、感染管理認定看護師の資格を取得し、大学病院の感染制御部という感染対策を行う部門に所属しています。

感染管理担当者となって五年が経過し、ふと今まで行ってきた感染管理を振り返り、積み重なっているデータの分析の必要性と、研究的な視野を持った取り組みの必要性を感じました。そんな時、大学院進学の機会を得ることが出来ました。働きながら学ぶこと、大阪からの通学など、大変なことも多くありました。しかし、各地方から集まる同級生、アドバイスを下さる先輩方に支えられ、楽しく二年間を過ごすことが出来ました。そして何よりも操華子教授には、臨床にいるだけでは絶対に得ることが出来ない学術的な考え方を教えていただき、また、大切な人達との繋がりをいただいたと思っています。

「大学院での学びを臨床で活かすこと」、それがこれからの私の課題です。

在学中に東日本大震災という不幸な出来事があり、同級生の一人が一緒に修了できない状況となってしまいました。しかし、彼女は修了する私達にお祝いの言葉を贈ってくれ、次年度に復学することを決められました。その優しさ、強さを同級生として誇りに思い、応援したいと思っています。

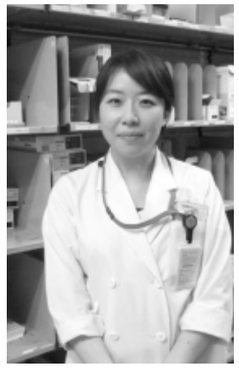
臨床薬剤師として

修士課程　生命薬科学専攻
医療薬学分野　臨床薬学領域

山西由里子

私は国際医療福祉大学薬学部を卒業後、病院薬剤師として社会人の道を歩み始めました。病院という臨床現場での業務は、患者様の痛みや悲しみといった現実や夢・希望という患者様の想いに一番近い場所で共感のできるものでした。臨床現場で私が感じた想いは、『医療人として臨床薬剤師としてもっとできる事はないだろうか？』でした。患者様の期待に少しでも応えたい、チーム医療を推進して医療の質の向上に少しでも貢献できないだろうか。その答えを見つけるために大学院進学を決心しました。

大学院では幅広く多くの講義を選択し教養を高め、その知識を臨床現場で活かせるように努力しました。また、修士研究は医薬品経済学をテーマとし、医薬品の臨床エビデンスと経済性を統合した医薬品の評価に関する研究を行いました。研究成果は薬剤疫学学会や緩和医療薬学会などで発表することができました。



大学院には社会人として入学したため、忙しい日々を送りましたが、臨床と学問を同時に深めることができ、大変貴重で有意義な時間を過ごせたと思っています。これも私をサポートしてくださった大学院の先生方のおかげだと思っています。ありがとうございました。今後も、臨床薬剤師として、できる事を少しずつ患者様へ提供していきたいと思っています。

第22回 Odawara 小田原キャンパスレポート

平成二三年度学位記授与式

三月一五日、小田原キャンパスでは、小田原保健医療学部と大学院の学位記授与式が挙行された。当日は晴天にも恵まれ、大野速雄小田原市副市長、鈴木吉兵衛小田原箱根商工会議所会頭をはじめ、数多くのご来賓、保護者、教職員に見守られ、学部生一五三名（看護学科五四名、理学療法学科五〇名、作業療法学科四九名）と、小田原・熱海キャンパスに所属する大学院生一八名（博士課程四名、修士課程一四名）に学位記が授与された。

北島政樹学長、金澤一郎大学院院長より学位記を受け取った総代は、江本沙希さん（作業療法学科）、今井丈さん（博士課程）、岩上さやかさん（修士課程）。続いて、学長賞が加藤彩花さん（看護学科）、内藤由香莉さん（理学療法学科）、江本沙希さんに授与された。そして、学部生を代表して加藤彩花さん、大学院生を代表して根岸茂登美さん（博士課程）より謝辞、学部生を代表して内藤由香莉さんより、卒業記念品贈呈が行われた。

●学長賞受賞の3人（左から江本さん、内藤さん、加藤さん）

平成二三年度謝恩会

学位記授与式終了後、ヒルトン小田原リゾート＆スパに会場を移し、平成二三年度謝恩会が挙行された。昨年度は東日本大震災の発生を受け、謝恩会は自粛となったため、小田原保健医療学部としては『二回目』の謝恩会となる。

謝恩会実行委員長の横山啓太さん（理学療法学科）をはじめ、各学科から集まった実行委員を中心に九月から準備を始め、国家試験直前も貴重な時間を割いて謝恩会実施に努めた。

謝恩会の場を楽しんでいる姿が多かったが、どこか、凝縮された四年間を共に過ごした仲間との別れを惜しんでいるようにも見えた。小田原保健医療学部三期生として巣立って行った一五三名の卒業生。これから歩むそれぞれの道で、更なる輝きを放って欲しい。

（学務課　下田岳史）

●謝恩会実行委員長の横山啓太さん（左端）と実行委員の皆さん

●お世話になった先生と記念の一枚!!

キャンパス間交流

三月一〇日・一一日、フットサル部員一七人、国際ボランティアサークルメンバー六人を対象に、大田原キャンパスとのキャンパス間交流を実施した。

一日目は、大田原キャンパスのオープンキャンパスに参加し、自由にキャンパス内を見学。自分と同じ学科などで研究内容を学んだり、小田原キャンパスにはない学生食堂の雰囲気を味わったりと、思い思いに広いキャンパスを楽しんだ。

二日目は一緒に那須セミナーハウスに宿泊した大田原キャンパスの学生との交流。フットサル部は交流試合を、国際ボランティアサークルは本学卒業生で作業療法士の石井氏により国際ボランティアの説明会が実施された。

キャンパス間交流は今回で四回目、宿泊は初めての実施だった。『とても楽しかった。来年は他のサークルでもう一度参加したい』との声も聞かれた。

（学務課　佐藤浩子）

●力一杯戦った交流試合

●現地でボランティアとして活躍している先輩の話を真剣に聞く学生

大学発・政策提案制度表彰式

平成二三年度大学発・政策提案制度において、神奈川県と協働して事業化する政策を提案し、県政の問題解決に貢献したことに対し、二月一〇日、神奈川県庁において黒岩知事から表彰状を授与された。

本学より提案した事業は「精神障がい者の社会参加支援準備セミナー事業」。この事業は、神奈川県と小田原保健医療学部が協働して、平成二四年度より実施していくこととなる。

（総務課　高久晃）

第12回 Fukuoka Tenjin 福岡天神キャンパスレポート

福岡天神キャンパスは、平成二三年九月二六日より初年度看護学部三年生の**領域別実習、地域・在宅看護学、精神看護学、成人看護学、老年看護学、小児看護学、リプロダクティブ看護学実習が開始**となった。

実習初年度であるため、五月二四日に各領域の合同臨床指導者会議を開催し、本学の実習概要の説明を行い、その後、各領域に分かれ臨床指導者の方々と意見交換を行った。その後実習に向けて各領域の担当教員は実習施設との調整等を行った。

一方、学生の方は、これから始まる長期の実習に戦々恐々としている者、実習で多くのことを学びたいと目をキラキラ輝かせている者など様々であった。

私が担当している在宅看護学実習は、「地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、在宅での看護実践を学ぶこと」を目的としているため、年齢や疾患などに枠がなく在宅療養している療養者や家族すべてが対象となる。さらに「在宅では多職種の連携や協働により在宅療養を支えるため、その必要性を理解し看護師の役割を学ぶ」、また、「療養生活を継続するための在宅ケアシステムについて理解する」ことで本学部の教育目標であるチーム医療についての学びを深めさせたいと考えている。

本学部の在宅看護学実習の実習場所は訪問看護ステーションであるが、一施設の学生の受け入れは二名がほとんどである。そのため実習施設は福岡市、古賀市、柳川市、大川市等の一四施設にも及ぶ。実習期間は三週間で、一回の実習期間に五施設の実習施設を教員が巡回し指導を行っている。

在宅看護学実習は、訪問看護ステーションの看護師と同行であるが、学生が直接療養者宅を訪問する。家庭におけるしつけが多様化しているため、訪問時におけるマナーや態度の事前指導が重要である。そのため本学部では、実習前に訪問時のマナーのロールプレイングを行う。

玄関での挨拶、靴の脱ぎ方、部屋の歩き方など事細かく指導している。この頃の学生は畳の縁や敷居などを踏まないようにと指導しても、「畳の縁や敷居ってどこですか」という始末である。さらに緊張のあまり、足がもつれる学生もいる。チェックリストを元に指導を繰り返し、なんとか形になる。事前に練習しているためか、挨拶やマナーが良いと褒められた学生もいて、うれしい限りである。

また学生は、生活体験が希薄であり療養者や家族がどのように在宅で生活しているのか生活者の視点で捉えることが困難である。実習初期は療養者の病気や障害を中心に看護を考えてしまうため、そこに療養者・家族の生活や暮らしが見えてこない。実習で、様々な療養者のお宅を訪問し、訪問看護師からの助言で、少しずつではあるが療養者・家族を生活者の視点で捉え看護を考えることができてくる。

「在宅で生活する療養者や家族は暗いイメージがあったけど、病院にいる時よりも家族のそばにいることでイキイキとしていて笑顔が見られた。」「介護者も介護を楽しみながら行っている人もいる」等実習前に持っていた療養者や家族のイメージが変化してくる。

さらに療養者や家族との関係が取れてくると、療養者や家族の価値観や生活スタイルを尊重した看護の重要性に気づき、訪問看護師の指導のもと一部看護を実施する。また、学生は療養者や家族が活用している社会資源の学習が進むと、療養者や家族が安心、安全に在宅療養を継続していくためには、訪問看護師だけでは支えられないことに気づき、様々な関係職種が連携・協働しながら療養者・家族の生活を支えていることを理解する。

実習の終りには各自が在宅看護学実習での学びを事例として発表を行い、学生同士で意見交換を行う。他の学生の事例を聞くことで、様々な療養者の固有のケアを学ぶことができ、学生同士で学びが共有できる。

在宅看護学実習の学びをとおして、病院や施設での看護を振り返り、患者の在宅での療養生活を想定した看護、さらに他職種との連携や協働などチーム医療についても学びを深めて欲しい。在宅看護学実習において学生が主体的に学べるような環境を作っていきたいと思う。

（福岡看護学部　波止千恵）

第26回 Okawa 大川キャンパスレポート

四回目の学位記授与式

福岡リハビリテーション学部と九州地区大学院は平成二四年三月一二日、同学部講堂で平成二三年度の学位記授与式を開催した。今年度は学部卒業生一七二名（理学療法学科九七名、作業療法学科三九名、言語聴覚学科三六名）、大学院修了生二八名（博士課程三名、修士課程二五名）の計二〇〇名を大川キャンパスから送り出した。

当日は「ハレの日」にふさわしい穏やかな天候に恵まれ、華やかな装いの卒業生は、満面に笑みを浮かべながら入場した。開式に先立ち、前日でちょうど一年が経過した東日本大震災で犠牲になられた方々のご冥福を祈り、参列者全員で黙とうを捧げた。

在校生で結成された合唱隊が校歌を斉唱。学部卒業生総代・松田理咲さん（理学療法学科）が北島政樹学長から、続いて博士課程修了生総代・平島ユイ子さん、修士課程修了生総代・山口良樹さんが金澤一郎大学院院長から、それぞれ学位記を授与された。

成績優秀者に贈られる表彰では、学長賞三名（松田理咲さん、作業療法学科・今井健人さん、言語聴覚学科・河野久美さん）、日本リハビリテーション学校協会「優秀賞」三名（理学療法学科・有家尚志さん、作業療法学科・奥園絵里加さん、言語聴覚学科・山本矩実さん）に表彰状が手渡された。

北島学長、金澤大学院長、満留副学長の式辞の後、大川市長・植木光治氏（副市長代読）、大川三潴医師会会長・松本英則氏、福岡県議会議員・秋田章二氏から、心のこもった祝辞をいただいた。

卒業生の謝辞は、学部卒業生・河野久美さんと大学院修士課程修了生・清水和代さんが務め、友情を育みながら勉学に励んだ学生生活の思い出や感謝の意とともに、将来への誓いの言葉を述べた。

最後に卒業記念品の目録が卒業生から北島学長に贈られた。

卒業生は盛大な祝福の拍手を受けながら退場し、この後、学科に分かれて学位記伝達式が行われ、各学科長から一人ひとりに学位記が手渡された。

夕刻から、卒業生主催による謝恩会が久留米市内のホテルで行われ、恩師を囲んで談笑する卒業生の輪が幾重にもできていた。

この日巣立った二〇〇名の卒業生は、キャンパスで培った専門的な技術と、人としての温かい心を胸に、それぞれの夢へと歩き出す。ライバルでもあり、友人でもある同期生が互いに切磋琢磨しながら、医療の世界でいつまでも元気に活躍し続けて欲しいと心から願う。

山口雅也教授 最終講義実施

福岡リハビリテーション学部開設以来、学部運営及び学生教育にご尽力いただいた山口雅也教授が、平成二三年度でご退職となり、最終講義が三月一三日、同学部講義室で行われた。テーマは「アンチエイジング時代を考える」。グループの医療機関をはじめとする病院関係者、大学教職員、学生など約一〇〇名が聴講した。

金出英夫学部長のあいさつの後、座長は理学療法学科長（当時）・田原弘幸教授が務めた。がん、心臓病、脳卒中の予防がアンチエイジングの近道になることや、人の寿命についてなど、大変興味深い内容を分かりやすく解説していただいた。

講義終了後、前任の大学から今日に至るまで長年ご一緒に研究・教育・臨床に携われた理学療法学科・杉原甫教授（高木病院病理部長）から、謝辞が述べられ、最後に、花束が贈呈された。

会場の講義室前の廊下には、山口教授の趣味である写真が多数展示されており、聴講者の足と目を引き付けていた。

山口教授には引き続き、医療法人社団高邦会名誉理事長として、国際医療福祉大学・高邦会グループにお力添えいただく。

【山口雅也教授プロフィール】
一九三〇年生まれ。九州大学医学部卒。
元佐賀医科大学学長。日本内科学会功労会員。医療法人社団高邦会名誉理事長。医師。
担当科目／内科学・関連職種連携論など。
趣味は写真と渓流釣り。

（広報室　望月秀樹）

第4回 Shioya 塩谷 看護専門学校キャンパスレポート

第四回生 三年間の成長

三月六日、国際医療福祉大学グループとなって初めて入学してきた第四回生三〇名が卒業した。この学年から新カリキュラムとなり、何をするにも「初めて」づくしの学年であった。そのため国家試験後の卒業間近に、看護技術演習を組むこととなった。

その演習は経鼻経管栄養と導尿で、モデル人形を使っての実施だった。同じ演習を夏に一年生が実施しているが、今回は三年次それも卒業直前。知識とそれまでの臨地実習で培われてきた技術や対象への配慮については期待をもって臨んだ。

国家試験後で「何を今更」という雰囲気かと思いきや、オリエンテーションの食いつき？の良さ、モチベーションの高さに正直驚いた。昨今の学生は、机上の学習は苦手でも演習や実習（実習記録以外の患者様との関わり）は大好きという傾向にある。第四回生も一年次の時から演習には生き生きと参加していた。

しかし今回の目の輝きはその時とは違う『新人ナースになるんだ』という自信と自覚を感じた。演習時間も一年生よりも短く設定し、準備や片付けも学生主体で組んでみた。ひさしぶりの演習だったために若干の心配をしていたが、それも無用であった。演習当日、こちらの期待をはるかに超えて、殆どの学生が事前学習をして臨み、スムーズにそして確実に演習を終えることができた。遵守すべき安全、そして対象への心配りはさすが三年生であった。臨地実習で多くのことを見学し、経験したことが自信につながり、教科書で学んだ知識と看護技術を結びつけられたのだろう。三年間という短く限られた時間に、『普通の高校生』が『専門職業人』に成長（進化と言っても過言ではない）する過程を実感した。

第四回生との三年間を振り返り、多くの患者様やその家族の方との関わりが彼らを大きく成長させてくれたのだとあらためて厚く御礼申し上げたい。そして、これから始まるそれぞれの看護の道が長く続き、そして明るいことを願ってやまない。

（教務部　八木澤妙子）

Topics トピックス

開原成允先生を偲ぶ会

一月一三日、都内において、二〇一一年一月一二日に逝去された国際医療福祉大学大学院の開原成允大学院長を偲ぶ会が開原家主催で開催された。高木理事長、北島学長、金澤大学院長、谷名誉学長、佐藤学事顧問をはじめ、矢崎国立病院機構前理事長（現本学総長）、大江和彦東京大学院医療情報経済学分野教授など、開原先生と親交の厚かった方々が参加され、久代夫人とともに先生が残された数々の業績や思い出をエピソードを交えながら語り合い先生を偲んだ。

こうした中、日本における医療情報分野をリードし、最後まで医学会の第一線でご活躍された開原先生のご功績を称えるとともに、先生の残された足跡を後人に引き継ぐために、本年一〇月頃、「開原成允先生記念シンポジウム」を開催することとなった。今後立ち上げる企画準備委員会で内容を詰め、具体的な日程等が決まり次第お知らせします。

（秘書室　服部是史）

福祉援助工学分野 院生にリフトリーダー修了書

昨年一二月一四日、大学院福祉援助工学分野管理指導者養成領域に学ぶ院生に、公益財団法人テクノエイド協会からリフトリーダー修了書が交付された。

リフトリーダーとは介護職員の腰痛負担を軽減するためのリフト活用の観点から、移乗用具であるリフトの操作実技を学び、施設などでのリーダーとなる人材養成を図ることを目的に公益財団法人テクノエイド協会が認定する資格である。

管理指導者養成領域では二年間のカリキュラムの中に、リフトリーダーをはじめ車いす安全整備士、可搬型階段昇降機安全指導員などの資格取得に必要な講義・実習を網羅しているのが特徴で、今回初めて修士一年の院生にリフトリーダーの修了書が手渡された。

演習は日曜終日にわたって行われたが、証書は自分たちが学んだことの証ともいえる。福祉用具の中でもリフトは普及しているとは言い難い。それだけに院生には、オピニオンリーダーとしての役割が期待される。

（福祉援助工学分野　准教授　東畠弘子）

Topics

第3回 国際医療福祉大学 技術情報交流会

医療福祉の現場ニーズを県内企業等の持つ技術を通じて製品化につなげることを目的に、二月八日、大田原キャンパスで、三回目の「技術情報交流会」（県・市と共催）が開催された。本学教員や附属病院職員から事例研究（現場ニーズ）の紹介があり、医療機器メーカーや県内中小企業約一〇〇人が熱心に聞き入った。

第二部の交流会では、医療現場でのニーズと会員企業の技術とをマッチングさせながら技術開発につなげていけるよう、積極的に情報交換をする姿が目についた。

（大田原キャンパス　総務課）

大学院 李建軍氏（中国リハビリテーション研究センター院長）講演会

三月一七日、「中国のリハビリテーションの現状と展望」について講演をして頂いた。

中国のリハビリ事業は五〇年代に始まり、八〇年代以降急速に発展している。二〇〇一年度の高齢化率（中国では六〇歳以上が高齢者）は一三・三％で、一五年には一六％になる。障害者は毎年百万人単位で増加しており、リハビリのニーズは高齢者一・七八億人、障害者八二九六万人、慢性疾患患者二億人になると推計される。一方、リハビリ関係者は現在二万人で、毎年二千人を養成しているが、到底サービス提供体制が充足しない。現在、国家戦略五年計画の一一回目の途中で、二〇一五年には「誰でもリハビリテーションサービスを受けられる」を目標に体制強化を図っている。中国のリハビリ関連機構は、中国障害者連合会、衛生部、地域システムで構成されている。省レベルのリハセンター三〇、市レベル九二（中国では市が県よりも大きい行政単位）、県レベル四千。八百の三級（三級が最上格で、二級、一級と続き、それぞれ甲乙丙と分かれる）、一万八千の地域リハビリ機構を通じて、サービスを展開している。

今後は国際生活機能分類の理念に基づき、健康状態、身体損傷、活動制限、参加制限などの総合的判断を環境要因と個人要因とを考慮し実施したい。その為には各種リハビリ施設発展の促進が必要で、**①政府主導で多様な発展モデルの構築　②リハビリ施設設立、管理、審査標準の確立　③リハビリの社会化　④社会認知の拡大化　⑤社会の認可**　が必要。国際交流と協力の強化がこれら成功を後押しする。

（医療福祉経営専攻　教授　松浦清）

医療福祉・マネジメント学科 国家試験直前 対策講義＆壮行会

一月七日・八日、国家試験を間近に控えた医療福祉学科四年生に対し、直前対策講義と壮行会が行われた。試験まで一か月を切り、緊張や不安など胸中様々の中、先輩達を応援したいという思いで集まった三年生有志により、炊き出しが行われた。

『スイーッと受かれーっ！』のスローガンのもと、スイーツ（おしるこ）とカレーライスが用意された。恒例行事となっているためか、準備の手際も年々良くなってきている。両日行われた炊き出しは、四年生のお腹と心を満たしていた。

また、後輩から先輩へ合格の願いを込めて、励ましのメッセージが書かれたお菓子が一人一人に手渡され、二日間の対策講義の最後は、後輩達および教員からのエールで締めくくられた。

（助手　蛭田真弓）

認定資格合格証授与式

医療福祉・マネジメント学科では経営学検定、日商簿記検定、診療報酬事務能力認定、医療情報技師能力検定、診療情報管理士、ITパスポート、医療情報基礎知識検定の資格取得を学習成果の一つとして推奨している。平成二三年度のこれらの合同合格証授与式が一月二五日に行われ、延べ二〇七名（前年比一六名増）の合格者が一同に会した。授与式には経営系コースの学生のみならず、簿記検定や経営学検定に昨年度末に合格した福祉系コースの学生も出席し、コース横断的な学習成果を喜ぶ声が聞かれた。「この成果を成功体験として、より大きな目標に挑戦していってもらいたいね」丸木学科長がつぶやいた一言が印象的であった。

（講師　今野広紀）

Topics

看護学科 二〇一一年 新授業科目 統合実習

臨床における看護実践能力向上のための教育を終えて

看護学科では、二一年度改編カリキュラムの新授業科目として三年次に「統合実習」が位置づけられた。これは、臨床における看護実践能力向上のための二単位のプログラムであり、三年次までに基礎・小児・母性・成人・老年・精神看護学の六領域一九単位の実習で修得した能力を統合して発展させることが目的である。この統合実習での学びは、四年次の在宅・地域看護学でさらに統合し、病気の回復から在宅・地域での健康の保持増進にむけて一貫した看護実践能力を高めるための重要な柱になる。

【主体性を高めるために】

統合実習は、既に終了した実習とは異なり、学生自身が希望する領域を選択する。そして、選択した領域の対象の発達段階・健康レベル、看護の特徴を踏まえ、自分で課題を設定する。さらに、課題を達成するための実習目的・目標および計画を立案し、臨床指導者と調整しながら主体的に看護実践を進めていく。教員は、学生の活動の相談役として臨床側と共にサポートする。

【統合実習報告会での成果】

学生が企画し、後輩である二年生の参加のもと二一グループが報告を行った。二年生からは、「先輩達は自信に満ちていて頼もしい」「自分たちもこのような実習に向けて授業に真剣に取り組む必要がある」などの意見があった。この実習を通して、実践を論理的にまとめ発表する努力や患者様の言葉の背景にある考えを予測し引き出していくような看護が重要であるなど、看護観の深まりもみられた。

（准教授　糸井裕子）

平成二三年度 看護学科FD学習会

本年度のFD学習会は二月二八日、武蔵野大学大学院看護学研究科准教授の草柳浩子先生を講師に招き「アクションリサーチとは」のテーマで、「様々ある研究デザインの一つであるアクションリサーチを知り、看護の研究におけるアクションリサーチの有用性について考える」をコンセプトに行われた。

午前は、アクションリサーチの特徴と、その手法を用いた研究を紹介していただいた。午後は、四グループに分かれ、アクションリサーチを用いた研究計画の一部をディスカッションし、積極的に意見交換がなされた。今後の研究に生かせるのではいう希望をもち、看護研究を進めていく上でも良い機会になったと考える。

（助教　橋本幹子）

作業療法学科 とちぎ福祉用具コンテスト

平成二三年一一月二六日、第二回栃木県作業療法学会において、「第六回とちぎ福祉用具コンテストの表彰式が行われ、本学科の学生三名が表彰された。栃木県作業療法士会会長より表彰状を受け、受賞者を代表して倉林まやさんが挨拶した。

【優秀賞】倉林まや

【入　賞】小沼祐介・吉田朋未

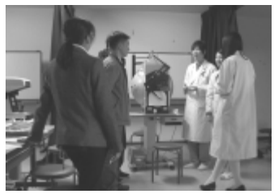
当コンテストは、障がい者や高齢者の為に発明・工夫した福祉用具を発掘し表彰するとともに、作業療法の普及・啓発を促進するために開催されている。学生は、障がい者、高齢者の作業場面における困難を想像して、学生なりの独創的なアイディアで多数の福祉用具を作成し応募した。学生は日頃講義で学んだことを形にする貴重な経験ができた。

（助手　関優樹）

視機能療法学科 台湾元培科技大学の視察団を迎えて

一月一〇日、台湾元培科技大学より教員と学生約二〇名が訪問。その中で、視光系の学生二人と蔡雅賢理事、教員一名を本学科に迎え、山田教授を初め教員四名と四年生三名が応対した。

お茶を飲みながらの情報交換では、学生交換留学や教員派遣など今後の交流の可能性などを話し合った。その後、実習室のゴールドマン視野計や光を走査して眼底網膜断層像を可視化できる光干渉断層計などの機器を、学生が英語と日本語、漢字による筆談を交えて四苦八苦しながら説明した。その後、授業体験として教員がミニレクチャーをおこなった。



夕方には国際交流センター主催の歓迎パーティが開かれた。元培大学学生によるパフォーマンスも披露され、双方の学生・教員が一緒に写真を撮るなど、楽しいひと時を過ごした。

学生が外国の学生に接して説明の機会を持ったことは、極めて新鮮ないい経験になったようである。さらに今後の本格的な教育・研究交流に期待したい。

（教授　靱負正雄）

冬季海外保健福祉事情

ハワイ

ボランティア活動など貴重な体験の連続

福岡リハビリテーション学部
理学療法学科　教授　藤城直二

ハワイ大学カピオラニ校は遠くに輝く海が見える美しいキャンパスである。雨期とはいえほぼ毎日晴れ渡り、傘を差すこともなく絶えず優しい風が吹いていた。

午前中は医学英語や医療福祉の講義、午後は講義をもとにした病院・老人保健施設などの見学である。講義では、医療福祉のアメリカの制度とハワイ特有な仕組みの根幹に独立性を重んじる国民性が反映されていることが示されるなど今後の学習に参考となる内容となっていた。

病院・施設見学は十分に時間をかけ、少人数であったため興味深い見学が出来た。スタッフの方々には我々の訪問に丁寧に応えて頂き、ある施設では作業療法の本質とは何かまで話が弾み、意識の高い学生にとっては貴重な時間となった。

●カメハメハ大王像の前にて

また老人のケアを主に行う病院でボランティア活動に参加できた。英語でお年寄りに話しかけたり、筆談をするなど、学生には貴重な体験となった。

人間として大きく成長することができた

福岡リハビリテーション学部
理学療法学科二年　井上雄太

病院実習で感じたのは、日本とハワイ（アメリカ）との医療の差である。日本の医療に比べハワイの医療は、医療の質・人材の質・施設の質などが確保され、また医療リスク管理の方法も確立され、それぞれが発展していると感じた。

またハワイは医療のみならず、自然も魅力的であった。特に、みんなでハナウマ湾へ泳ぎに行き、ウミガメを見たことが一番印象に残っている。ハワイは自然が豊かであり、私が触れ合ったすべての自然や動物はそれぞれ魅力的であり、言葉では表すことが出来ないものを肌で感じることが出来た。

ハワイの医療・文化・自然・歴史を知ることが出来たとともに、大田原から参加した学生とも交流を深められたのでこの縁を大切にしていきたい。ハワイという素晴らしい場所を学ばせてくれたすべての人達に心から感謝したい。

●修了証書授与後、お世話になった先生方とともに

オーストラリア

意欲の高まった学生を今後も支援したい

小田原保健医療学部　看護学科
講師　谷山牧

真夏のオーストラリアでの研修に、大川リハビリテーション学部ＰＴ・ＯＴ学科と小田原保健医療学部看護学科から一九名が参加した。

オーストラリアの保健医療制度の講義を受け、病院や高齢者施設等を見学した。学生達は熱心に質問するなどして、わが国との類似点と差異を見つける比較学習に積極的に取り組んだ。この研修を通じてオーストラリアの保健医療上の仕組みと課題とそれに対する具体的な取組みを学習できた。さらに、英語レッスンやホームステイ先での会話を通じ、英語によるコミュニケーションスキルも向上した。

最終日に学生がこの研修で何を学んだかを英語で発表した。わが国とオーストラリアの医療制度の理解を深め、英語能力を知る貴重な機会であった。さらに、英語学習意欲が高まったと感じた学生が多かった。その意欲を維持し、さらに成長できるよう今後も出来る限りの支援をしていくつもりである。学生からさらに意欲あふれる学習態度を引き出せるように教授法に工夫をしたいと感じた。

●高齢者福祉施設での日本文化紹介

研修を通じて学んだこと

小田原保健医療学部
看護学科三年　島田瑛未

今回の研修は私にとって三度目のオーストラリア滞在となったが、以前よりもさらに貴重な経験を積んだ二週間であった。

私立・公立病院をはじめとした医療関連施設の見学、医療制度の講義では、日本との違いに驚くことが多々あり、詳しい説明を受ければ受ける程、事前にもっと日本の保健福祉事情について学んでおくべきであったと思わされた。

ホームステイや、現地の英語のクラスで授業を受けるという、英語しか通じない環境であったため、始めは戸惑いや不安も多かった。しかしながら、様々な国からきたクラスメートは私が英語を理解できない際に親切に分かりやすく説明してくれたこと、ホストファミリーが自分のつたない英語に耳をかたむけてくれたことから、いつの間にか積極的に英語で話したいと思うようになっていた。

人との出会いに恵まれた研修であった。諸先生方を始めこの研修に携わった全ての方々に心より感謝したい。

●TAFEでの修了式

附属病院　国際医療福祉大学病院

国際医療福祉大学病院に於いて、三月三日の「耳の日」に当院耳鼻咽喉科の中川医師による健康教室が開催された。

『いつまでも健やかな聞こえのために今できること』をテーマに、一二一名もの参加者を迎えた。

中川医師からは、テーマに沿い、耳の健康の為に、日常生活で注意する点について分かり易くお話いただいた。

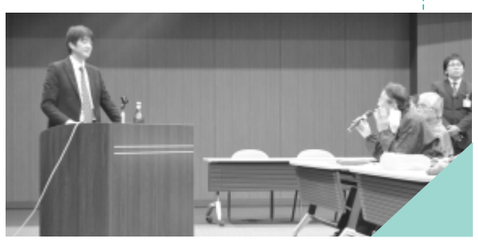
注意する点は八点。①朝満腹、昼八分目、夜六分の食事を心掛ける②早食い、ながら食い、まとめ食いを避ける③食物繊維とビタミンＣを先に摂取する④炭水化物を控えめにする⑤二一時以降の食事は摂らない⑥良く噛んで食べる⑦ハミガキと口ゆすぎを実践する⑧ＥＰＡ・ＤＨＡ主体の食事をする、といった内容だった。

普段の生活を規則正しく行うことが、耳の健康を保つ秘訣であることを参加者の方にお話しいただいた。

また、講話の中で、大きな音を聞き続けることも、耳には大変良くないことであり、聞き続けてもよい目安時間を分かりやすくご教授いただいた。

ご参加いただいた方たちからの質問も後を絶たず、会が終了しても中川先生の周りには参加者たちの列ができ、次回開催の要望の声が上がっていた。

（総務企画課）



附属病院　国際医療福祉大学塩谷病院　♥AED講習会

二月一五日・二四日・二九日、矢板消防署救急隊を講師に迎えてＡＥＤの講習会を実施した。業務後の時間にもかかわらず合計で九二名の職員が参加した。

まずはじめに行う最も重要なことは、大声で人を集めることである。救急車を呼ぶ、人工呼吸・心臓マッサージを行う、ＡＥＤを取りに行く等、一人ではできないことが多くあること、人数がいると心強いこと等が理由である。

ＤＶＤによる説明を受けた後、班に分かれ、人形を使用した人工呼吸・心臓マッサージ、ＡＥＤの操作の仕方を学んだ。救急隊員が各班についていただけたため、わかりやすく操作することができた。

はじめは遠慮がちだったが、次第に大きな声が出るようになり、心臓マッサージの手にも力が入るようになり、具体的な質問も数多く出てきた。

病院内にはＡＥＤが五か所設置してあるが、勤務外でも、ショッピングセンターやスポーツ会場等で遭遇した場合に、積極的に人命救助を行っていきたい。

（事務局）

附属病院　国際医療福祉大学熱海病院

第54回　院内学術懇話会

当院では院内学術懇話会を定期的に開催し、部署間の情報交換や職員の知識と意欲の向上に役立てている。

一月二七日は以下の通り実施した。

■臨床検討会

司会：折居喬（予防医学センター長）

人間ドックにおける骨密度調査―二〇一〇年度の調査結果―　～骨粗鬆症・ロコモティブシンドローム予防を目指して～

■第49回ＣＰＣ

司会：奥石義彦（呼吸器外科教授）

間質性肺炎のため在宅酸素療養中、食欲低下から摂食不能をきたし呼吸不全にて死亡した八四歳男性例

臨床：樋川美帆（研修医）、星野誠、北洞哲治（内科）、病理：北村創（病理学）

第14回　褥瘡講演会

「明日から使える！　褥瘡ケアの基礎」

二月三日、平塚共済病院外科病棟主任で皮膚・排泄ケア認定看護師の植木京子様をお招きし、褥瘡予防のアドバイスや、できてしまった場合の適切なアセスメント等を解説していただいた。

（総務課　篠原拓真）

附属病院

国際医療福祉大学三田病院

引越し・見学会を経て順調に診療開始

国際医療福祉大学三田病院は、約二年半の工事期間を経て、平成二四年二月一三日に新病院として診療を開始した。同時に、東京都指定二次救急医療機関の指定を受け、東京都認定がん診療病院としての機能充実に加え、本格的な救急医療にも参入している。

新病院開設に伴い、約一週間に及んだ旧病院からの移転・引っ越し作業では、直前まで診療を行っていたこともあり、患者様やお見舞いの方々には何かとご不便をおかけしたものの、当グループの全国の施設からたくさんの応援者が集まり一致団結したことで、スムーズに引っ越し作業を終えることができた。病棟にご入院中の患者様搬送においても、病院スタッフや応援スタッフ・看護部で、無事に新病院への引っ越しを完了することができた。各施設からの応援スタッフには、この場をお借りして、あらためてご助力に感謝する。

新病院は、地上一一階・地下一階で延べ床面積も旧病院の一・五倍となり、明るく広々としたエントランスロビーからは、東京タワーの全景が至近距離で見え、夜ともなれば迫力のあるそのイルミネーションに、ご来院の方々からご好評をいただいている。

診療面においては、がん診療拠点病院として一層の機能充実を図っていくとともに、既存の診療科・センターにおいて、専門性に基づく高度な医療を引き続きご提供している。また、新病院では他部門と独立した専用エリアを予防医学センターに設け、3．0テスラMRI、320列マルチスライスCT、PET-CT、デジタルマンモグラフィなど最新の医療機器を駆使しながら、落ち着いた雰囲気のなか、きめの細かい人間ドックが受診できることが大きな特長だ。

新病院での診療開始初日の二月一三日には、朝八時半に正面入り口で、小川聡病院長・福井康之副院長・鎌田信悦副院長・野宮雅子看護部長によるテープカットが行われ、新生三田病院としての第一歩を踏み出した。

また、開設に先立ち新病院の見学会・祝賀会を開催した。二月一日には港区医師会および医療連携先向け、二月四日には医学部の教授および関係者向け、二月五日には地域の方々向けの見学会をそれぞれ開催した。地域の方々対象の一般見学会では、約八〇〇名の方がご来院され、患者様をはじめとする多くの方々の新病院に対する期待を感じることができた。二月八日には予防医学センターの見学会・人間ドック食の試食会を開催し、約一六〇名の方が、専用エリアで受診できる予防医学センターを見学された。

開設一週間後には、外来患者数も九〇〇名以上に復活し、新病院のスタートは順調な滑り出しとなった。

第一回 健康セミナーを開催

三月二四日（土）、最上階の三田ホールで第一回健康セミナーを開催した。健康セミナーは、一般の方を対象に毎月一回定期開催する公開講座で、生活習慣病の予防や気になる疾患の治療について、当院の専門医がわかりやすく解説するもの。

第一回となる健康セミナーは、「血流改善で足軽やかに～下肢静脈瘤～」というテーマで、心臓血管センター血管外科部長の小櫃由樹生教授が、血管のしくみや下肢静脈瘤の原因と症状、治療などについて講演を行った。

●講演を行う小櫃教授

一五五名の参加者は熱心に聴講され、質疑応答では活発な質問が相次ぎ、参加者の健康に対する関心度の高さがうかがえた。講演後には、リハビリテーション室スタッフが簡単にできるけんこう体操を参加者と一緒に行い、新病院第一回目の健康セミナーは盛況のうちに終了した。

次回・第二回のセミナーは四月二一日（土）の開催で、心臓外科部長の牛島輝明教授による「身体にやさしい心臓手術」。

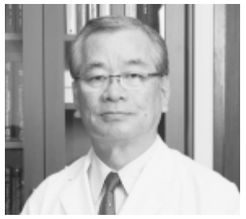
天皇陛下が受けられたオフポンプ手術から最先端のロボット手術までわかりやすく解説する。第三回は、五月一九日（土）で、予防医学センター長の岩崎康夫教授による「気になる脳ドック事始め」。脳ドックについてわかりやすく紹介する。

（総務企画課）

Message

小川聡病院長からのメッセージ

心臓血管センター長／国際医療福祉大学教授



Profile 慶應義塾大学医学部卒、医学博士、慶應義塾大学名誉教授
日本循環器学会元理事長、日本心臓病学会元理事長、日本心電学会元理事長
学術集会会長：第75回日本循環器学会、第51回日本心臓病学会、第23回日本心電学会、第23回日本不整脈学会、第12回日本心不全学会

平成二四年二月一三日に新三田病院での診療が始まりました。当日朝八時に新病院の玄関前で、病院長、副院長、看護部長によるテープカットが晴れがましく挙行され、その後は一同が整列して、ご来院される患者様をお迎えいたしました。職員一同、二年半にわたって待ち望んできた新病院の開設でしたが、いざ引っ越しとなると多くの課題がありました。隣接地とはいえ、入院患者様の安全な移動を達成することが至上命題で、そのために看護部を中心に入念な作戦が練られました。二月一一日の移動日には、百名程度の患者様が旧病院に残っておられ、送り出す病棟側と、受け入れる新病棟側にスタッフを配置し、旧病院と新病院の間に設置された仮設の渡り廊下を使って、車椅子あるいはベッドでの大移動作戦が実施されました。移動前後に容態の急変を示す方もなく、約三時間で無事引っ越しを終了することができました。重症の患者様は、救急車を要請して搬送いたしました。

引越し前日の二月一〇日は臨時休診としましたが、九日夕方までは通常通りの診療を済ませた後、部門ごとに全診療機能を新病院へ移すのもまた大変で、スタッフ総出の作業となりました。一〇日からの三日間は、備品を山積みした台車を押して仮設廊下を行き来するスタッフでラッシュアワーの駅の様な状態でした。さらに、今回の新病院への引っ越しを機に、懸案であった電子カルテが導入されたので、オーダリングを含めた全てのシステムが果たして診療初日の一三日朝に稼働するかどうかもあり、担当者は直前まで検証作業を繰り返し、不眠不休で当日朝を迎えることになりました。今回の引っ越しにあたっては、全国のグループ病院から多数の事務職員が応援に駆けつけてくださり、病院に泊まり込んで労働奉仕をしていただきました。開設直後に心配されたトラブルの発生も無く通常診療を立ち上げられましたのも、こうした皆様のおかげと、この場をお借りして深く御礼申し上げます。

開設後二月が経過し、病院は落ち着きを取り戻して、受診される患者様の数も従来を超えてまいりました。患者様からもお褒めの言葉をたくさんかけていただいております。「建物も素晴らしく綺麗になったけれども、職員が生き生きと働いており、言葉遣いも丁寧で、不慣れな病院での案内もとても親切にしてくれる」というご意見を耳にしますと、これまでの疲れが一気に吹き飛ぶ気持ちになります。地域密着型医療施設としてのこれまでの三田病院の良さを生かし、これからも患者様に信頼され、安心できる病院として、また医療の面でもトップクラスにあるという自負を持って、全職員心を一つにして診療にあたってまいりたいと思っております。奇しくも新病院開設に合わせ、東京都から二次救急病院の指定を受け、当院はさらなる地域貢献の役割を果たすべく邁進してまいります。

IUHW 卒業生・留学生通信 2012.4

「組織は人」、仕事も人生も充実してほしい

■財団法人磐城済世会　松村総合病院　理事長秘書　松村耕平

二〇〇八年に医療経営管理学科を卒業し、現在、いわき市の松村総合病院で病院経営に携わる松村耕平さんからご寄稿いただきました。松村さんは東日本大震災の直後、物資が不足する状況を投稿サイトにアップし、支援物資や義援金を集めるなどの活動も行っています。

皆さんはじめまして。私は四年前に医療経営管理学科を卒業し、現在も大学院の博士課程に籍を置いて病院経営について勉強しています。

現在私が取り組んでいるのは人材育成による業務改善です。残念なことに現在の病院における経営資源は潤沢ではありません。人材ひとつをとっても常に不足しがちです。しかし、不足をいくら嘆いたころで経営環境は改善されません。だからこそ人材一人ひとりのスキルアップが求められます。例えば、今まで三人でこなしていた仕事をスキルアップによって二人でこなせるようになれば、一人は他のサポートに回ることができるようになります。ただし、そのためには十分な教育が必要です。教育が十分でないままの無理な人数減らしでは業務の効率はむしろ悪化してしまいます。

組織の大小はあれ、その組織を実際に動かすのは現場のスタッフです。どれほどすばらしい設備やマニュアルがあろうとも実際にそれを使う人が育っていなければ良い運営はあり得えません。一人ひとりが成長し、そしてその人の成長がそのまま組織の成長につながるのだと考えています。「組織は人である」、それが私が大学を通して確信に至ったテーマです。

人は人生の大部分を仕事に費やします。それゆえに仕事の充実は人生の充実に大きく貢献すると私は考えています。職員にはそれぞれ仕事に対する誇りがあります。医師には医師の、看護師には看護師の、事務には事務の、職種は違えどもそれぞれ医療人としての本懐があります。スキルアップはその本懐を遂げる助けになります。そして、それが人としての成長を促し、組織にフィードバックされるのだと考えています。

経営者の立場からすると職員は人生を費やす場として自らの法人を選び、そして共に医療を為す仲間です。皆が幸せに、医療人として、そして人間として充実した人生を送って欲しいと思います。

最後にこのような機会を与えていただいたことに感謝を申し上げます。

留学生紹介コーナー

今年度、大田原キャンパスからは、学部七名、大学院一名の留学生が卒業・修了しました。卒業式開催前のわずかな時間に国際交流センターに集まり記念写真を撮りました。大田原キャンパスを巣立っていく留学生八名をご紹介します。

スレスタ・スニティさん（ネパール）

医療経営管理学を専攻しました。卒業後はネパールにいったん帰国し、他国の大学院進学を目指しています。英語も堪能で、国際的な活躍が期待されます。（五ページもご覧ください）

ソムチャイさん（タイ）

六年制薬学部初めての卒業生です。学科ではいつも優秀な成績を修め、薬剤師としての日本での就職も決まりました。

テティ・ファデラーさん（インドネシア）

本学初のインドネシア出身の留学生です。理学療法学を専攻しました。入学したばかりの頃は、戸惑うこともあったようですが、学年が上がるにつれ、たくましさが増していきました。（五ページもご覧ください）

チェ・ユンジュさん（韓国）

看護師を目指して日本に留学しました。四年間の努力が実り、夢が実現しました。春からは、愛知県にある大学の付属病院への就職が決まっています。

キム・テジョンさん（韓国）

多彩な才能を持っている作業療法学科の学生です。韓国ではグラフィックデザインの仕事をしていて、そのセンスは一目見ただけでクオリティーが違います。本学同窓会「マロニエ会」のロゴマークは彼のデザインです。

カク・エンシュウさん（中国）

福祉の勉強をしました。卒業後は大学院に進学し、さらに知識を深めるつもりだそうです。中国の大連の出身で、在学中は学科の友達と一緒に中国へ行くなど有意義な留学生活を送りました。

トウ・ギョウコウさん（中国）

放射線情報科学科の学生です。中国の黒龍江省の出身なので寒さには強いけど、大田原の冬は寒かったそうです。東芝メディカルシステムズの工場見学の際は、一番熱心に医療機器の組み立ての様子を眺めていました。

カツ・モウさん（中国）

大学院修士課程で理学療法の研究をしました。中国茶道の有資格者で、年末の国際交流親善パーティーの際には、来賓の方々にお茶を立ててくれました。そのお茶のおいしさは今でも語り草です。

●岩尾副学長・北村センター長と記念写真

開講中!

IUHW Graduate School Information

国際医療福祉大学大学院 乃木坂スクール 2012年度前期講座

本学大学院では、毎年授業の一部を「乃木坂スクール」として一般の方々に公開しています。これからの申込みも可能。本学大学院生は授業科目以外でもほとんどの講座が無料、卒業生・修了生・教職員は半額以下で受講できます。詳しくはホームページでご確認ください。

#	講座タイトル	コーディネーター	曜日	時間	開始日・回数	定員	一般受講料	遠隔・Web
01	DPCと2次医療圏データの活用と日本の医療福祉の見える化	高橋泰	月	19:40〜21:10	4/9〜・15回	80名	36,000円	○
02	経営者のための医療政策の潮流講座	中村秀一	月	18:00〜19:30	4/9〜・15回	50名	36,000円	○
03	臨床看護研究と文献活用	今田敬子	火	18:30〜20:00	5/15〜・6回	10名	20,000円	−
04	福祉用具個別援助（個別サービス）計画 一日集中講座	東畠弘子	5/8・火	10:00〜17:00	1回	30名	10,000円	−
05	自立支援型ケアマネジメント・自立支援介護	竹内孝仁	水	18:30〜21:10	4/11〜・13回	80名	36,000円	○
06	病院のIT化と経営戦略への応用	外山比南子	水	18:30〜20:30	4/18〜・15回	18名	50,000円	−
07	脳の疾患と心の疾患	桃井隆	水	18:00〜19:30	4/18〜・12回	40名	30,000円	○
08	発信力で福祉を変える・医療を変える 〜現場から・ジャーナリストから・行政から〜	大熊由紀子	木	19:40〜21:10	4/12〜・13回	80名	30,000円	○
09	読売新聞特別講座 震災復興・社会保障と税の一体改革を考える	水巻中正 丸木一成	金	18:30〜21:00	4/13〜・12回 6回選択	80名	36,000円 18,000円	○
10	医療福祉介護の転換〜地域包括ケアシステムの構築へ	高橋紘士 武藤正樹	土	18:30〜20:00	4/14〜・14回	80名	36,000円	○
11	診療情報管理講座 〜疾病コーディング〜	伊藤由美 坂本千枝子	第3土	12:50〜17:50	4/21〜・5回	30名	30,000円	−
12	電子教材によるサマリの作成と監査	外山比南子	7/28・土 7/29・日	13:00〜19:30 9:00〜18:00	2日間集中1回	18名	20,000円	−
13	電子教材による医師事務作業補助実践講座① 文書作成	外山比南子	8/11・土 8/12・日	13:00〜19:30 9:00〜18:00	2日間集中1回	18名	20,000円	−
14	セラピストのための統計解析入門	勝平純司 下井俊典	8/4・土	9:30〜16:10	1回	40名	8,000円	−

学べる!役立つ!究める!動画サイト。医療・福祉・介護のエキスパートのあなたへ

医療福祉eチャンネル http://www.ch774.com 好評配信中

主な配信番組

●医療・健康
ボイス 〜医療の扉をノックする〜、脳科学と再生医療・遺伝子治療の最前線、エビデンスと物語の出会い 〜医療福祉の新しい潮流と発展〜

●介護・福祉
役に立つ福祉用具の今日・明日・未来、床ずれの防止とケア 〜基礎から用具まで〜、地域包括ケアの理念と現実的展開の方向性

●資格試験対策・受験講座
ケアマネジャー受験講座、介護福祉士受験講座

●病院・施設実務
自立支援ケアマネジメント・自立支援介護、看護生涯学習講座、ケアマネジメント・認知症ケア・介護予防のための講座

●リハビリテーションアワー
第46回日本理学療法士協会全国学術研修大会（山梨）、2011作業療法フォーラム、作業療法士現職者共通研修

●厚生労働省課長会議
厚生労働省介護保険・高齢者保健福祉担当課長会議（2月23日開催）※無料配信
厚生労働省障害保健福祉主管課長会議（2月20日開催）※無料配信

●介護福祉士受験講座

●第46回日本理学療法士協会全国学術研修大会（山梨）

●2011作業療法フォーラム

お問い合わせは　フリーダイヤル　0120-870-774　医療福祉eチャンネル お客さま係（月曜〜金曜 9:00〜17:00）
Eメール　info@iryoufukushi.com　HP　http://www.ch774.com　〒107-0062 東京都港区南青山1-3-3 青山一丁目タワー4階

学生向け動画配信サイト OPEN!「国際医療福祉大学VODライブラリー」http://www.ch774.com/student.php

主な配信番組
●大学授業・副教材
文学、演劇論、死生学概論、国際医療福祉論、世界遺産と国際文化政策、健康科学論、リスクマネジメント論、トップクラス講義、関連職種連携論、PT動作分析論、生理光学、公衆衛生看護活動、産業看護の基礎、視能訓練学I、等

広報誌 IUHW 89 号

発行：学校法人 国際医療福祉大学

〔大田原キャンパス〕広報委員会
栃木県大田原市北金丸2600-1　☎0287-24-3000
〔小田原キャンパス〕
神奈川県小田原市城山1-2-25　☎0465-21-6500
〔福岡天神キャンパス〕
福岡県福岡市中央区長浜1-3-1　☎092-739-4321
〔大川キャンパス〕
福岡県大川市榎津137-1　☎0944-89-2000
編集：大田原キャンパス広報室　☎0287-24-3210
デザイン：野佐デザイン
写真：米山真人

医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。
国際医療福祉大学
http://www.iuhw.ac.jp/

ⓒ国際医療福祉大学2012　Printed in Japan　禁無断転載・複写

こんなにある！ お腹も心も満足するおススメグルメスポット

一人暮らしを始めた新入生には「食べること」は気がかりのひとつ。
そんな心配を解消するために、在学生が「お腹満足スポット」と、
誰かと行きたい「おしゃれグルメスポット」を紹介します。
ぜひ新生活の参考にしてください。

まずは、われらが心強い味方、カフェテリアのお腹満足メニューを僕たちが紹介します。

看護学科4年
川口健太さん（左）
長野県・佐久長聖高校出身

越沼琢也さん（右）
栃木県立佐野高校出身

川口：オレは断然ボリュームがあるカレーかな。程良い辛さでボリュームがあって、カツをのせてアレンジもできるから、たくさん食べたい人にはおススメだね。

チキンカツカレー
¥350
＋50円で大盛

越沼：オレは学生だとバランスのとれた食事を取るのが難しいと思うから、キャベツとか野菜も入った金丸丼がおススメかな。大盛りにもできるしね。

川口：他にもビビンバ丼とかの日替わり丼もあるから飽きないし、毎日が楽しみだよね。

金丸丼
¥300
＋50円で大盛

越沼：ご当地ラーメンも人気だね。

川口：すごく美味しいよ。でも、期間限定だから早く食べないとなくなっちゃうし、人気だから早めに並ぶことをおススメするよ。

越沼：あー、腹減ってきた。

川口：まだ10時だし。

時にはおしゃれに決めたい時も！ 大田原市内のお気に入りスポットから私たちのイチオシを紹介します。

作業療法学科3年
大堀綾希さん（左）
福島県立喜多方高校出身

高田友理さん（中）
栃木県立大田原女子高校出身

阿部美紗紀さん（右）
栃木県立さくら清修高校出身

Clover ボヌール

小川のほとりに立つカフェとレストランのあるお店。オーナーのお父さんが作った野菜やお米を使い、パンも自家製です。今日はレストランで一番人気の「ボヌールセット」(1850円)で充実のランチをいただきましたが、普段は授業の空き時間を見つけて友だちとカフェを使っています。ドリンク400円から。ケーキセット800円。

●ボヌールセットのメイン（お肉料理）

hikari no cafe

外観もインテリアも、お洒落でどこか懐かしい感じのするお店。何といってもチェーン店のコーヒーショップでは味わえない癒し感が魅力で、一度知ったら、二度三度と来たくなります。カプチーノ(500円)はかわいいラテアートや季節限定フレーバーもあって、これもリピーターになってしまう理由です。お食事メニューも充実。

●カプチーノ

Clover ボヌール

田澤店長（兼ベーカリー長）から：カフェにはソファの席もありますので、ひとりでゆっくり読書や昼寝などにもご利用ください。

大田原市浅香5-3764-95
11:00～22:00(L.O.21:00) 月曜定休

hikari no cafe

渡邉マネージャーから：ラテアートは本を見ながら３か月でマスターしました。レパートリーは現在８種類。新作にも挑戦中です。

大田原市本町1-2701-23
10:30～17:30(L.O.17:15)　日月曜定休